

模擬安否確認行動

(平成 23 年 7 月 17 日実施)

報告書

東日本大震災聴覚障害者救援対策神奈川県本部

模擬安否確認行動報告

< 模擬安否確認行動までの経過 >

☆対策本部起ち上げ☆

○平成 23 年 3 月 11 日の震災を受け、全国レベルの救援本部「東日本大震災聴覚障害者救援中央本部（以下、「中央本部」という）」が起ち上がる。

○平成 23 年 3 月 20 日

中央本部からの全日本ろうあ連盟（以下、「連盟」という）各都道府県加盟団体への地域本部立ち上げ依頼を受け、「東日本大震災聴覚障害者救援対策神奈川県本部」（以下、「県域本部」という）」を起ち上げる。

構成団体 （社）神奈川県聴覚障害者協会
神奈川県中途失聴・難聴者協会
（社福）神奈川県聴覚障害者総合福祉協会
神奈川県手話通訳者協会
神奈川県要約筆記協会
神奈川県手話サークル連絡協議会
神奈川県ろう者ゆりの会（H23.9～）

○中央本部の救援行動の支援と共に神奈川県での災害に備える活動も行っていく事を確認する。

☆模擬安否行動へ☆

○日時 平成 23 年 7 月 17 日（日）

○目的

- ・各地域の聴覚障害者及びその関係者の所在地を確認する。
→他地域の人が救援に来た際に、分かりやすい地図の作成。
- ・被災した際にどのような救援体制が必要かを考える。
→県本部、地域本部の役割分担をしていく。

○経過

（社）神奈川県聴覚障害者協会の支部協会を基盤とし、該当地域の構成団体の支部及び会員も集結。

県域本部での全体説明会の後（資料 1 参照）、各地域で行動本部を設け、模擬安否確認行動の準備を進めた。

○方法

- ①各地域で 5～6 人（目安）を 1 グループとし、リーダー、サブリーダーを決める。
- ②事前に対象者に模擬安否確認行動のチラシを配布し、模擬安否確認のために訪問することを周知する。（資料 2 参照）
- ③当日朝 9 時に県域全体で一斉に安否確認を開始する。
- ④在宅、不在の確認をし、地域本部に報告→県域本部に報告。（資料 3 参照）

☆模擬安否確認行動から出されたこと☆

○良かったこと

- ・ろう者の家や、避難所が把握出来た。
- ・各団体が集まる事で関係者同士の顔合わせ、つながりが持てた。

○要望

- ・開催時期の配慮
- ・日程的に余裕を持ち、説明会を十分に行い、地域の打ち合わせも出来るようにして欲しかった。
- ・他地域の情報が欲しい。→報告会開催へ。

○課題

- ・行動グループを地域ではなく避難所ごとにしたらどうか？
- ・若いろう者や非会員にも周知し、参加してもらう方法。
- ・地域とのつながり。

<平成 23 年 7 月 17 日実施「安否確認行動訓練」の報告会>

10月2日(日) 13:00~16:10 茅ヶ崎地区コミュニティセンター

参加者 69人(神聴協20人 神難聴3人 社福2人 バッジ21人 神要協5人 県サ連(手話)13人 県サ連(要筆)4人 盲ろう者ゆりの会1人)

訓練実施後の県域本部会議では、各地域から出された反省をまとめ、県域本部として今後の対応をどう考えているのかを示す必要があるだろうということを確認した。そうした流れの中で、県域本部と市町村本部の役割分担、行政への要望、今後の訓練についてなど、関係団体との意見交換の中から次へつなげていくための報告会を実施することになった。

1. なぜ「安否確認」という形式で訓練を実施したのか/県域本部長

今回の訓練のポイント(地域での確認事項)を再確認

- ・地域での救援本部の体制をどう作るか
- ・聴覚障害者及びその関係者がどこにいるのか
- ・その人たちの安否確認にどのくらい時間と人手を要するか

2. 訓練を実施してみてどうだったか/意見交換

<良かった点>

- ・地域ごとに関係団体が集まり、どのように訓練を進めるか話し合う機会が持てたこと、自分の地域にどんな人がいるのかを知ることができたことなどが訓練の収穫

<反省点>

- ・9月から盲ろう者ゆりの会も構成団体に加わったが、時間が足りず、連絡が行き届かなかった。

<課題>

- ・訓練の目的が浸透せず、各戸を回り所在の確認と同時に地形や道の様子など改めて市内の様子を確認することができたという地域、ケイタイやFAXで連絡するという方法で所在確認をした地域、各戸は回らず集合場所を決めて点呼をとった地域など、ばらばらで訓練方法が統一されなかった

- ・普段からの地域でのネットワークの構築
- ・非会員のろう者の協力が得られなかった。活動を理解し、協力してもらい、会員へとつながっていく行動の作り方。
- ・見知らない人の訪問は不信感を与え、不安にさせる。名札等で地域本部の行動メンバーであることが分かると良い。

<今後の行動への課題>

- ・市内の聴障者及び関係者のマップ作り
- ・行政、自治会、民生委員との連携等、様々な想定を積み重ね安心、安全を考えて行く。
- ・非常時に行政が認めた調査員として動けると良い。
- ・地域の自立支援協議会の場を活用し、当事者の声を出していくと良い。

3. まとめ

今回の反省や要望をまとめて、県域本部がやること、市町村本部がやること、それぞれの役割分担を明確にしていく。それを元基に県、市町村行政への共通した働きかけを行ない、いつどこで被災しても同じ支援が受けられる体制を作っていきたい。また、共通認識・共通システムを持っておくことで、市町村間の横の連携を作ることが、災害時の迅速な対応につながると考えられる。

そのためにも訓練は1回限りではなく、繰り返し実施し、参加者を増やすことが大切。今回の訓練でわかったこと、できなかったことなどを整理して、次回の訓練の形式を考えていく。

2011. 7. 17
模擬安否確認行動について

東日本大震災聴覚障害者
救援神奈川県本部
2011/6/4

今回の行動の目的

- 災害発生時の聴覚障害者及びその関係者の安否確認、情報伝達の方法を確立させ、将来の災害に備える。

手 順

1. 市町村対策本部の立ち上げ

- 市郡協会
- 難聴者
- 手話通訳者
- 要約筆記者
- 手話サークル
- 要約筆記サークル

2. 代表、副代表の決定

- 代表は聴覚障害者、副代表は健聴者とする。
- 代表、副代表、各グループリーダー、サブリーダーの集まる本部の場所を決める。

3. 対象者マップ作成

- 市町村内の聴覚障害者及び関係者(以下「対象者」と言う)の居住地の場所の確認

4. 地域ごとのグループの決定

- 距離よりも往き来の便利さを優先に考える。
- 一つのグループには、聴覚障害者と健聴者の両方がいるようにする。
- 一つのグループは5人程度とするが、アパートや団地などまとまっている場合は5人以上でも可。

5. ブロックの作成(必要な場合)

- グループの数が多き場合は、いくつかのグループをまとめたブロックを作り、ブロックの代表、副代表を決める。
- この場合は、各グループは自分のブロックに報告し、ブロックはそれをまとめ、本部に報告する。

6. グループのリーダー、サブリーダーの決定

- リーダーはろう協役員が望ましいが、いない場合は、会員で健康で体力のある人を選ぶ。
- サブリーダーは健聴者でリーダーの近くに居住していて、かつ体力に問題ない人を選ぶ。

7. 安否確認ルートの確認

- リーダー、サブリーダーは担当グループの対象者の居住地、その地域の避難所及びそれらを回るルートを確認する。

- 1. ~7. までは6月中に終わらせておいてください。
- 準備の途中で生じた問題などがあれば、県域本部まで連絡してください。

8. 模擬安否確認行動

(1)

- 7/17午前9時に地震が発生したと想定して、安否確認行動を開始する。
- 代表、副代表は予め決めておいた本部に行って待機する。
- 一般の対象者には予め、安否確認訓練を行うことは周知しておくが、その日の行動は自由とする。

(2)

- リーダー、サブリーダーは予め決めておいた待ち合わせ場所に行く。
- 一緒に予め決めておいたルートで対象者の居住地を回る。
- 出来るだけ徒歩とし、無理な場合は自転車、それでも無理な場合はバイクも可とする。

(3)

- リーダー、サブリーダーは、居住地に着いた時間、在、不在を記録する。
- 全部周り終わったら、代表に終了時刻と、不在者をメールまたは電話で報告する。
- その後、本部に行く。この時は車でも可とする。

(4)

- 代表は全てのグループから報告が終わったら、県域本部に終了時間と不在者の数を報告する。

(5)

- 全てのグループのリーダー、サブリーダーが本部に集まったら、反省会を行い、問題点、改善案を話し合う。
- 話し合いが終わったら解散とする。
- 各市町村対策本部は話し合いの中で出た問題点、改善案などを整理して後で県域本部に報告する。

終

大災害に備えて



安否確認行動「訓練」のお知らせ

神奈川県域の聴覚障害者関係6団体では、もし地震など災害が起きたとき仲間が怪我をしていないか、困っていないか等、確認する訓練をします。

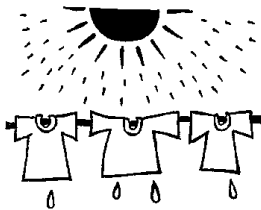
7月17日(日)午前9時～災害の時の訓練です。



地域担当者があなたの家に行きます。

家に居たら「います。」と教えてください。

用事がある時は、待っている必要はありません。



安否確認行動は以下の団体で行います。

社団法人神奈川県聴覚障害者協会

神奈川県中途失聴者・難聴者協会

神奈川県手話通訳者協会

神奈川県要約筆記協会

神奈川県手話サークル連絡協議会

社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会

(本部事務局)

お問い合わせは

Fax 0466-27-1225

E-mail:office@kanagawa-wad.jp



平成23年7月17日

市町村名	在宅者			不在者			計			終了時刻(報告時刻)				
	ろう者	難聴者	健聴者	計	ろう者	難聴者	健聴者	計	ろう者		難聴者	健聴者	計	
横須賀市	10	5	45	60	13	3	16	32	23	8	61	92	10:15(16:26)	FAX
鎌倉市	14	4	0	18	5	1	0	6	19	5	0	24	11:00(16:19)	メール
逗子市・葉山町	9	1	9	19	11	1	2	14	20	2	11	33	11:30(11:41)	メール
三浦市	15	2	24	41	4	1	0	5	19	3	24	46	10:05(13:19)	メール
藤沢市	28	4	12	44	24	3	3	30	52	7	15	74	14:30(15:18)	メール
茅ヶ崎市	15		0	15	11		0	11	26	0	0	26	10:20(12:06)	メール
寒川町	8	1	18	27	5	0	8	13	13	1	26	40	11:40(11:49)	メール
平塚市	28	2	21	51	45	0	14	59	73	2	35	110	13:45(15:49)	FAX
秦野市	4	0	1	5	0	0	0	0	4	0	1	5	13:05(13:11)	FAX
伊勢原市	9	0	6	15	0	3	0	3	9	3	6	18	11:30(14:21)	FAX
大磯町	12	0	11	23	7	0	2	9	19	0	13	32	11:00(13:16)	FAX・メール
二宮町	7	2	9	18	0	2	0	2	7	4	9	20	11:25(11:54)	メール
厚木市	14	1	11	26	18	0	2	20	32	1	13	46	記載なし(14:19)	メール
大和市	4	2	42	48	1	0	15	16	5	2	57	64	11:03(報告なし)	H23.8.28FAX
海老名市	10	3	40	53	7	0	17	24	17	3	57	77	14:00(14:15)	FAX
座間市	22	0	50	72	11	2	11	24	33	2	61	96	記載なし(13:23)	メール(神聴協)
綾瀬市	11	2	15	28	2	0	22	24	13	2	37	52	10:30(15:07)	FAX
愛川町				0	0			0	0	0	0	0		
清川村				0	0			0	0	0	0	0		
小田原市	27	12	18	57	12	2	10	24	39	14	28	81	12:30(13:01)	メール
南足柄市				0				0	0	0	0	0		
足柄上郡	25	2	29	56	7	0	24	31	32	2	53	87	14:45(15:03)	メール
箱根町				0				0	0	0	0	0		
真鶴町				0				0	0	0	0	0		
湯河原町	6	0	20	26	1	0	4	5	7	0	24	31	9:30(19:07)	FAX
相模原市				0				0	0	0	0	0		
ゆりの会	4	0	13	17	0	0	0	0	4	0	13	17	13:50(14:40)	センター職員より提出
センター職員	3	22	0	25	1	0	0	1	4	4	22	26	16:00(16:00)	センター職員より提出
計	285	65	394	744	185	18	150	353	470	83	544	1087		

※茅ヶ崎(ろう者・難聴者別なし)

※ゆりの会については、ゆりの会の意向により、本日開催の交流会会場にセンター職員山本が直接赴き、安否確認を行った。ろう者は全て盲ろう者であり、健聴者は通訳介助員である。

※センター職員については、連絡網により安否確認を行ったが、16:00になっても連絡が付かなかった者を不在としている。

※座間市の報告メールは神聴協に届き、後日県域本部事務局に転送されてきたため、当日に反映されていない。

※大和市より当日の報告はなかったが、H23.7.28に反省点を含めたFAXによる報告があった

平成 23 年 7 月 17 日実施「安否確認行動訓練」の報告会まとめ

日 時：平成 23 年 10 月 2 日（日）14：00～16：10

会 場：茅ヶ崎地区コミュニティセンター3 階大会議室

出席者：69 名

- ・（社）神奈川県聴覚障害者協会 20 人・神奈川県中途失聴・難聴者協会 3 人
- ・（社福）神奈川県聴覚障害者総合福祉協会 2 人・神奈川県手話通訳者会協 21 人
- ・神奈川県手話サークル連絡協議会 13 人・神奈川県要約筆記協会 5 人
- ・神奈川県要約筆記サークル連絡会 4 人・神奈川県盲ろう者ゆりの会 1 人

配付資料

- （1）安否確認訓練について（目的説明）
- （2）7/17 実施安否確認訓練反省点
- （3）安否確認集計表 ※安否確認行動報告資料参照

タイムスケジュール

- 14：00 開会あいさつ
- 14：05 安否確認訓練全体報告
- 14：50 意見交換（地域からの報告と今後の課題について等）
- 16：00 まとめと閉会あいさつ

<主な内容>

1、安否確認訓練の全体報告

- ・資料（1）、（2）、（3）についての説明と報告（詳細は割愛）

2、地域の安否確認報告と質問への回答・コメントなど

- ・非会員も含めて 5 町 1 市で行った。家の訪問と同時に避難所の確認や、写真を撮るなどの工夫をした。広い地域のため車を使用、次回は自転車だと思う。毎年訓練をした方が良い。（足柄上ろうあ協会）
⇒写真は後から確認できるので良い。広い地域での確認方法は今後の課題。
- ・盲ろう者は災害時、一人で避難できない。普段からの地域でのネットワーク構築が大切。日頃の交流の中で、コミュニケーション方法や災害時の対応などの情報交換が大切になる。県の通訳派遣事務所には盲ろう者 51 名が登録。会員数は 26 名で、県域の会員は 6 名。当日は他の行事と重なり、お知らせをただけ。会の組織力はまだ弱い。今後、災害時の対応と方向性を考えたい。（盲ろう者ゆりの会）
⇒盲ろう者ゆりの会も本部構成団体の一つ。今後は他団体とも協力し合って進められると良い。初めての試みで行き届かなかったという反省がある。
- ・市のろう者は県の協会に入らない人が多く、非会員からの協力があまり得られなかった。また、リーダーを非会員に頼んで良いのか記載がなく、難聴の方に頼んだ。（鎌倉市聴覚障害者協会）
⇒県の協会は何のためにあるのか。聴覚障害者の暮らしや安全を守り、日常生活の向上にある。この活動もその中の一つ。こうした活動を見て仲間に入ろうと思う人が増えると嬉しい。
- ・初めてのことで、進め方がわからない面もあった。徒歩で家を訪問した。日曜日なのに出勤する人が多く、ろう者は 7～8 人の参加。連絡はメールが安心でスムーズだと思う。（秦野市聴覚障害者協会）
- ・本来は徒歩か自転車と聞いていたが、南北に広い地域なので基本は自転車で回った。非常に離れているところは時間短縮のためバイクを使用。（藤沢市聴覚障害者協会）

- ・全部の地域を回るため車に乗せてもらった。意外と近い場所もわかり、良い経験だった。(鎌倉市聴覚障害者協会)
- ・ろう者の会員が100人。市内の関係団体もあわせると全体で400~500人と多数になる。そこで関係6団体が集まり協議した。家を訪問するには住所など個人情報をもらう必要があり、無理と判断。訓練に参加する確認の取れた92人の家を15グループにわけ、各地域内で場所を決めて、集合場所にきた人、来られなかった人で報告した。「顔合わせ」の意味も加えた。今回の訓練をして、家の周りに手話のわかる人がいてほっとした、避難所に顔がわかる人がいると安心との意見が多かった。(横須賀市聴覚障害者協会)
 - ⇒今回の目的は聴覚障害者、関係者の家を確認すること。地域別に集まる方法は目的とずれる。顔合わせなどは一つの成果だが、実際には避難所にいない時は家に行く。家の確認が今後の課題。
- ・3月の震災時は交流会の最中で、派遣のコーディネーターが来てくれた。他の場面では避難などが難しいと思う。連絡方法について、市の本部と確認し合うことも大切。災害後にライフラインが復旧したら、会員が自分で無事を報告することも良いのでは。(盲ろう者ゆりの会)
 - ⇒「こういう状況です」「こういう援助が欲しい」など自分から発信する方法を周知しておくことは大切。次回はそれらを含めて考えたい。

3、本部への要望

- ・案内のチラシを早く届けてほしい。今回、留守宅にもチラシを入れた。文面に留守宅向けの内容も盛り込んで欲しい。(三浦市聴覚障害者協会)
 - ⇒チラシについて誤解があった。訓練の内容を知ってもらうために、事前に配布して欲しかったが、留守宅に入れるチラシと思われたようだ。
- ・行政関係にも連絡して協力してもらい一緒にできれば良かった。(秦野市聴覚障害者協会)
 - ⇒打ち合わせから市と一緒に進められるとよい。これも課題の一つ。
- ・リーダーがいない時、サブリーダーが代わるのか？会員はどうか？
 - ⇒災害は、いつ起こるかかわからない。リーダーがいない時の順番を決めておく必要がある。
- ・携帯メールなどが不通の時にどう連絡を取るか、その確認が必要。(盲ろう者ゆりの会)
 - ⇒これからの課題になる。基本は歩きか自転車。広い地域は難しいが。
- ・市内の聴覚障害関係者の家を示した地図などを作り、本部で保管する。そうすれば他市へ応援に行ける。今回の調査を今後役に立ててほしい。(秦野市関係者)
- ・次回は盲ろう者の参加する方法も一緒に考えたい。(盲ろう者ゆりの会)
- ・自治会や民生委員などの力を借りるのも良いと思う。(足柄上郡関係者)
 - ⇒聴協だけでなく行政や自治体など様々な方法で確認すれば、漏れがない。災害時には行政に丸投げ出来ない。様々な想定を積み重ねて安心、安全を考えていきたい。

4、市町村との交渉など

- ・安否確認に際し市から資料を頂いた。避難所の資料によると台風、雨、地震などでは避難所が違う。どの避難所に行けばよいか迷うのでは。(鎌倉市聴覚障害者協会)
 - ⇒避難所の場所が災害の種類によって違うことは初めて聞いた。市からの情報をきちんと周知する必要がある。
- ・知らない人が家に来るのは不安。行政が認めた調査員のように身分が明らかな人が訪問できると良い。また、腕章、名札があると安心につながる。(藤沢市聴覚障害者協会)
 - ⇒考えが及ばなかった。次回は見てわかる物を身に付けるよう考えたい。行政の調査員は今後の交渉課

題。行政とろう者が協力関係を作り、災害時に調査員として依頼を受けて調査・報告する形もあると思う。

- ・神戸の震災時に避難訓練をして、その後で市と交渉した。避難所で準備して欲しいものを伝えた。老眼鏡、補聴器の電池、筆談用ボードなど。改めて交渉したい。また、市の障害者連合会があり、災害について災害対策課と交渉中。ろう者もそこに参加している。(藤沢市聴覚障害者協会)
- ・市の高齢障害課と消防署と年に2回ぐらい交渉している。避難所にはアイドラゴンの設置を要望。また、防災無線で計画停電の情報や緊急連絡を流すが、同じ情報をメールやファックスで伝えてほしいと要望中。返事はまだ、努力中。(中郡ろうあ協会)
- ・災害時に地震や火事などの情報が取れないので、市の防災無線の内容をファックスで送ってもらえることになった。ろう協会でも度々要望を出した成果だと思う。(三浦市聴覚障害者協会)

5、その他

- ・安否確認集計表の資料の訂正を。茅ヶ崎市の難聴者は一人。
- ・私は横須賀三浦圏域の自立支援協議会に参加している。平成18年から障害者自立支援法ができ、各市では3障害者が一緒に地域の中で生活できるように災害についても協議中。市の上には圏域があり、その上には県の自立支援協議会がある。政令指定都市を除く県域を5つに分け、それぞれに自立支援協議会がある。しかし、市の協議会に聴覚障害者が参加していない。聴覚障害者にとっての困難さをあげてもらえれば、市から圏域、そして県にあがる。良い機会なので盲ろうの方も含めてみんなで考えていきたい。何かあれば連絡を。(逗葉関係者)

⇒市町村の自立支援協議会があり、その上に県域を5つに分けた圏域自立支援協議会があり、更にその上に県の自立支援協議会があるとの話でした。また、今のお話とは別に、県域本部としても協議会と交渉を進めたい。

6、まとめ

今回は安否確認訓練の報告会として、参加した皆さんの声をお聞きした。アンケートの結果も含めて、今後の活動につなげたい。安否確認は震災が起こってからしばらくしての行動になる。そこで、盲ろうの方のお話のように近所の方の協力が欠かせない。まず、日頃の近所付き合いを大切にして、聴覚障害のコミュニケーション方法を理解していただく。大災害ではすぐに通訳が来てもらえないこともあるのでは。近所同士の助け合いがあり、その後で安否確認をする。皆さんからの貴重なご意見を参考にして取り組んでいきたい。

2011. 7. 17
模擬安否確認行動報告

東日本大震災聴覚障害者
救援神奈川県本部
2011/10/2

今回の行動の目的とは？

災害発生時に必要な行動

1. 自分、家族の身を守る
2. 救援本部を立ち上げる
3. 被災地域の聴覚障害者及びその関係者の被害状況を把握する
4. 必要な支援を整理し、支援行動計画を作る
5. 支援行動を行う

今回の訓練のポイント

2. →救援本部の体制をどう作るか
3. →被災地域の聴覚障害者及びその関係者がどこにいるか
→安否確認にどのくらい時間と人数が必要か

上記のことを実際に試しにやってみて確認する

今後の訓練の方針

1. 今回、実際に試しにやってみて、分かったこと、できなかったことなどを基に、より良い方法を考える
2. 他県の例などを学習する
3. より実際に近い形でやってみる

最終的な目的

- 県域本部、市町村地域本部の役割、体制を明確にする
- 防災、災害発生時の対応について、県、市町村へ要望する内容を明確にする

7月17日実施 安否確認訓練 反省点

1.訓練開催時期について

暑かったので実施の季節を春、秋等にした方が良いのでは。(健康面においても)
三連休で留守が多かった

1.事前打ち合わせをもっとしっかりと行うべき

確認方法を統一させる、適切な方法で行う
リーダー、副リーダーが万一連絡不通の時などを考慮し、代理まで考えておくべき
自宅に直接安否確認を望まない人もいた
ろう者一人で行う安否確認は二次災害の危険を伴う
グループ別けについて、地名でなく避難所ごとに別けては(別け方について検討が必要)
事前の周知がいきわたっていなかった
若いろう者の参加がなかった
担当以外の安否確認の状況の情報もほしい
本部会議で出されていない方法で行われていた(安否確認の対象者、リーダー等)

1.健聴者の安否確認は必要ないのではないか

ろう者の高齢化問題も含め課題に

1.マップ作成について

ろう者の家、避難所がわかってよかった

1.非会員(ろう者協会)、難聴者の参加について

声をかけて一緒に行うべき

1.地域とのコミュニケーション

近所の人に自分から聞く姿勢が必要
手話通訳者、ろう協、難聴者協会、要約筆記者間の交流を深めていくべき

1.避難所の確認について

避難場所、避難ルート事前に確認しておくべき
災害の種類(地震・台風)によっても避難場所が異なる

1.個人情報について

非会員の情報は個人情報の問題もあり把握できない

1.災害時の情報取得について

方法として171伝言サービス、119通報、消防署にメール・FAX送信消防署より手話通訳者派遣

1.災害時の心構えについて

自分でできることは自分でやるという考えが必要
近所の人に自分から聞く姿勢(地域とのコミュニケーションをとる)
ろう者・難聴者は日頃よりコミュニケーションボードを持ち歩くと良い、持ち歩ける防災グッズも検討しては

1.他団体との交流について

地域内で他団体との交流がもてて良かった、今後も密にしていきたい

1.独居、高齢ろう者の対応について

緊急性の把握が必要ではないか

1.ボランティア行事保険について

今後行うのであれば、加入したうえで行うのが望ましい

1.実際災害が発生した場合

行政との連携、当事者団体等（聴覚障害者県域本部）が担える事を考えておくべき

災害が発生した場合この方法で安否確認を行うのかとの質問があった。（訪問ろう者より）

サークルの人は、災害発生時には、家族等の安否確認、色々な面で安定してからの安否確認の参加でないと役割を担うのは難しい